

新・新興国ミャンマーの最新事情



2011年4月22日

ESD21顧問(理事)

鈴木 明夫

本日のトピックス

1. ESD21のミャンマーとのかかわり
2. ミャンマーでのセミナー概要
3. ミャンマー一般基本情報
4. 日本とのかかわりが深いミャンマー建国の歴史
5. ミャンマーの観光資源
6. 々 政治情勢
7. 々 経済情勢
8. 々 投資環境

1. ESD21のミャンマーとの関わり

“MYANKI CHI!!”によるESD21特別企画事業
「鈴黒コンサルタント？」の推進

- ESD21会員へのミャンマー情報提供
- ESD21会員によるセミナー・研修会支援
- ミャンマー／日本の個別企業交流支援

2. セミナーと会社訪問

1) セミナー:

去る2月、ビジネス情報誌「The Future」の出版記念セミナーに黒岩会長、和澤理事長と鈴木顧問がミャンマー側パートナーに招かれ「**TPSの基本原則と実践の有効性**」について講演をした。セミナー会場では総選挙での「民政移管」と15年のASEAN統合に向かったの参加者の**熱い視線**を強く感じた。

2) 会社訪問:

- ・SSS社
- ・MDCR社

セミナーの様子

セミナー会場の
案内板



黒岩会長の講演



講演会場(315名の参加者)

SSS社訪問

本社前で
社長など幹部と

工場内を視察



MDCR社訪問



執務風景

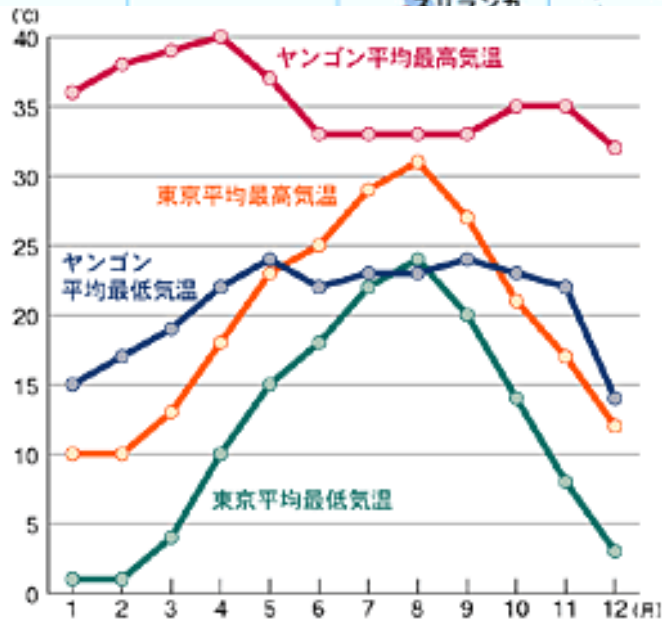


朝礼風景



3. ミャンマー 基本情報

1) 地理



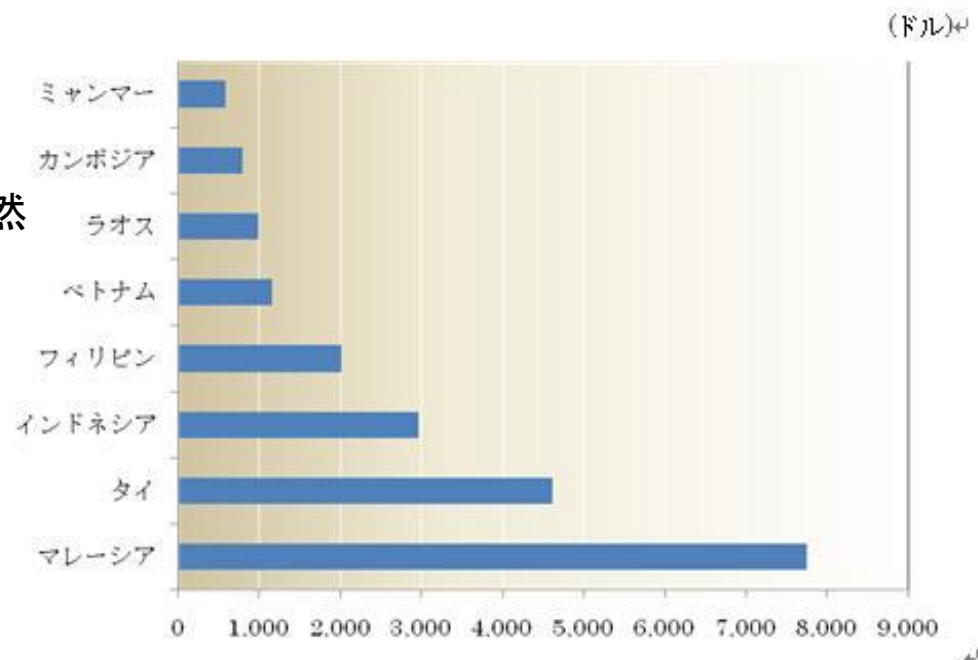
2) 国民、GDP



ミャンマー連邦

★2010年10月制定
 黄色: 国民の団結
 緑色: 平和と豊かな自然
 赤色: 勇気と決断力

図表2 ミャンマー及び周辺諸国の1人当り GDP(IMFによる2010年予想)



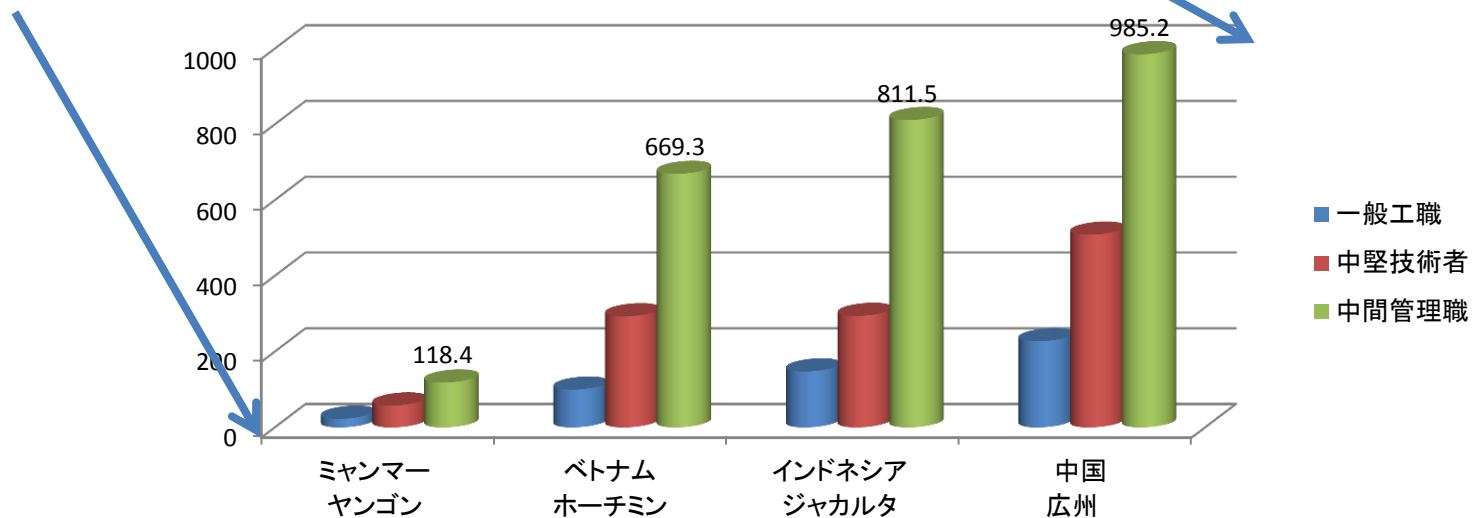
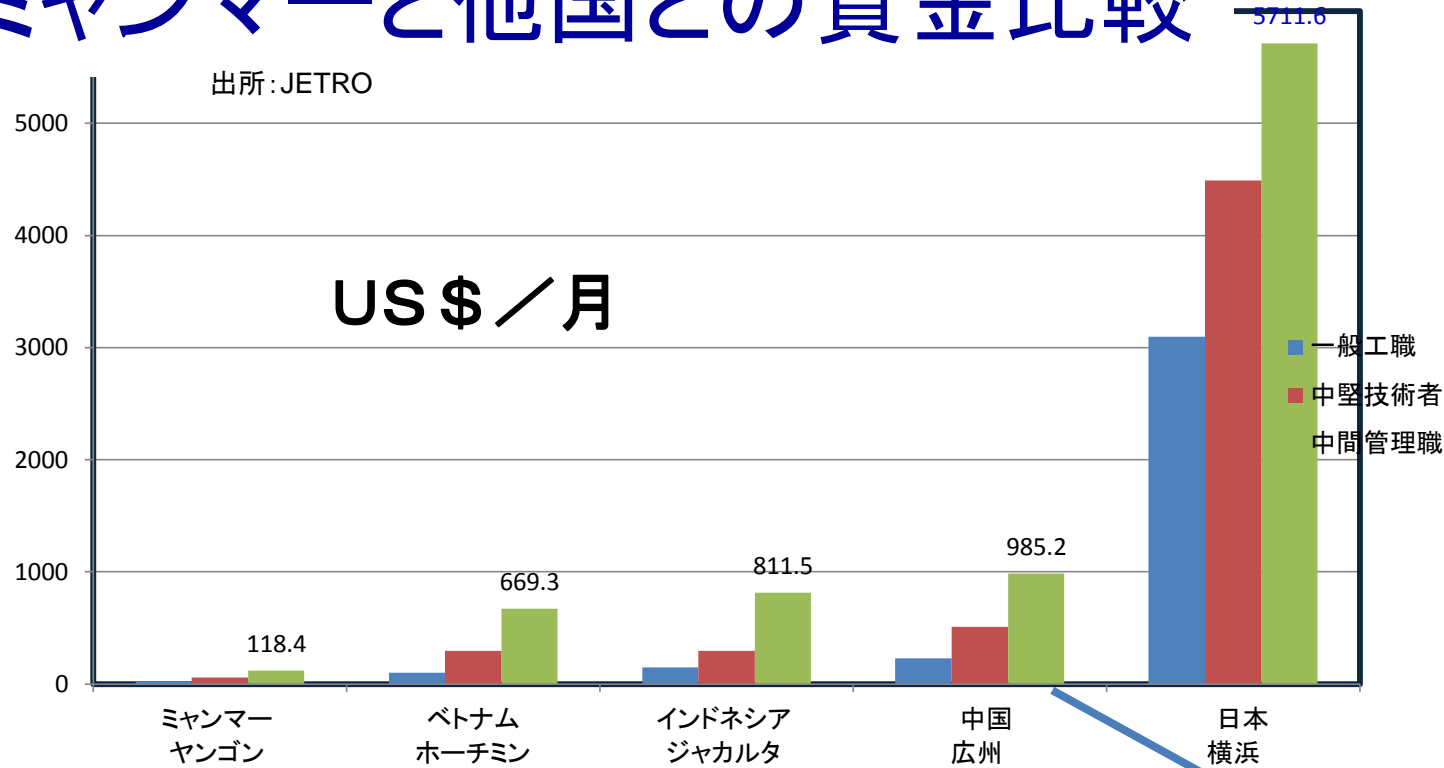
(出典) IMF World Economic Outlook Database October, 2010

項目	内容
国名	ミャンマー連邦共和国(1989年)
通貨	チャット(1000チャット/US\$)
面積	約68万km ² 日本の1.8倍
人口	5880万人(2009年アジア開発銀行)
首都	ネーピドー Naypyidaw (2006年10月にヤンゴンより遷都)
民族構成	ビルマ族70%、シャン族8.5%、カレン族6.2%、 ラカイン族4%、華人3.6%、モン族2%、インド人2% 135の民族
宗教	85%仏教徒(南方上座部仏教)、キリスト教徒4.9%、 イスラム教4%、ヒンドゥー教、アニミズム、など



チャット

3. ミャンマーと他国との賃金比較



4. 日本とのかかわりが深い ミャンマー建国の歴史

年表	
1044年	ビルマ人による統一王朝成立
1886年	ビルマ最後の王朝が英国との敗戦により、英国領インドに編入
1941年	日本軍が侵攻、アウンサンら民族主義者と連係し、ビルマ独立義勇団を結成し、指令官に鈴木大佐就任。3ヶ月で首都ラングーン陥落、英国軍を敗走させた
1943年	日本が(形式的に)独立承認、インパール作戦敗色濃厚なるや、アウンサンは英国から独立の約束もらい、寝返って反日に転ずる
1945年	太平洋戦争終戦、英国領に復帰
1947年	アウンサン暗殺(その後の混迷原因)
1948年	ビルマ連邦として独立
1954年以降は友好関係、多額の援助、	2003年以降は人道面のみ

5. 観光資源



世界三大仏教遺跡
隠れた遺産

バガン



ミャンマー(観光)最大の見どころ！

1044年ビルマ族による、史上最初の統一王朝が開かれた土地数千もの仏教建築物が林立し、世界最大級で最高の仏教遺跡。世界遺産未登録。



シュエダゴン・パゴダ (ヤンゴン)

起源は2500年前
原型は15世紀中期



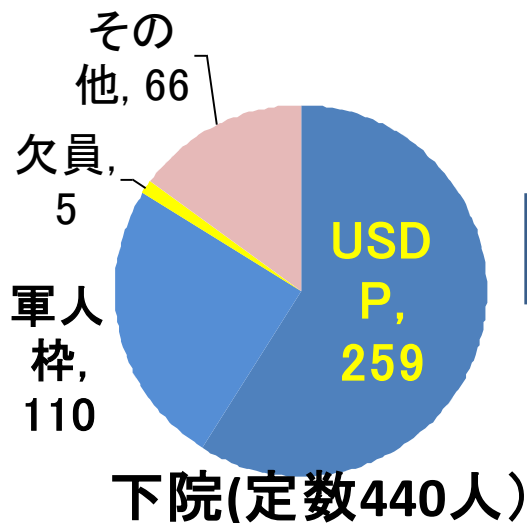
多くの寺院も



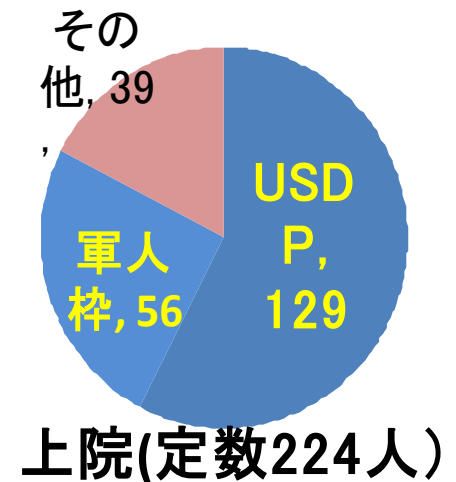
6. 政治情勢

- 3月30日 **テイン・セイン** (元首相) **大統領** 就任
49年続いた軍政から「**民政移管**」完了。
- プロセスは2008年憲法制定、昨年11月の
総選挙、今年1月からの国会開催
- 新国軍司令官 **ミン・アウン・フライン** 大將 就任

注: USDP = 連邦団結発展党



テイン・セイン大統領



● 同国への経済制裁解除につい
＜制裁中＞ 欧米・加・豪
＜支持＞ 中・露・印・ASEAN



- 1) 東南アジア諸国連合 (ASEAN) は、総選挙の実施と民主化指導者 (国民民主連盟 NLD) スーチーさんの軟禁解除で、欧米に制裁解除求めた。
- 2) 日本政府も一定の評価。
(朝日2月8日付)

7. 経済情勢

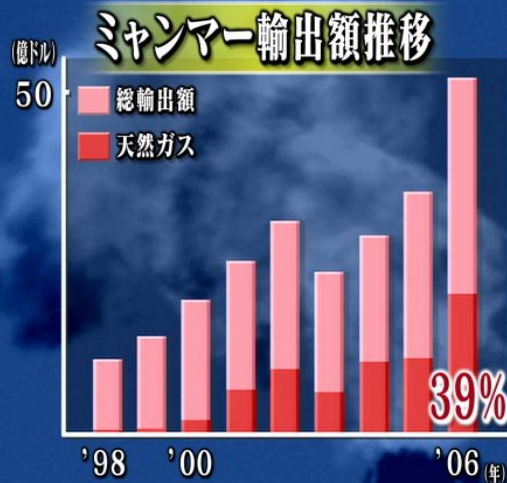
①国内：低迷しながらの安定

②国際：ミャンマーの実質GDP成長率＝

3.1%(2010年)→4.3%(2011年)：経済は拡大傾向

(2009年英国経済誌『エコノミスト』EIU発表)

天然ガスが最大の輸出品目

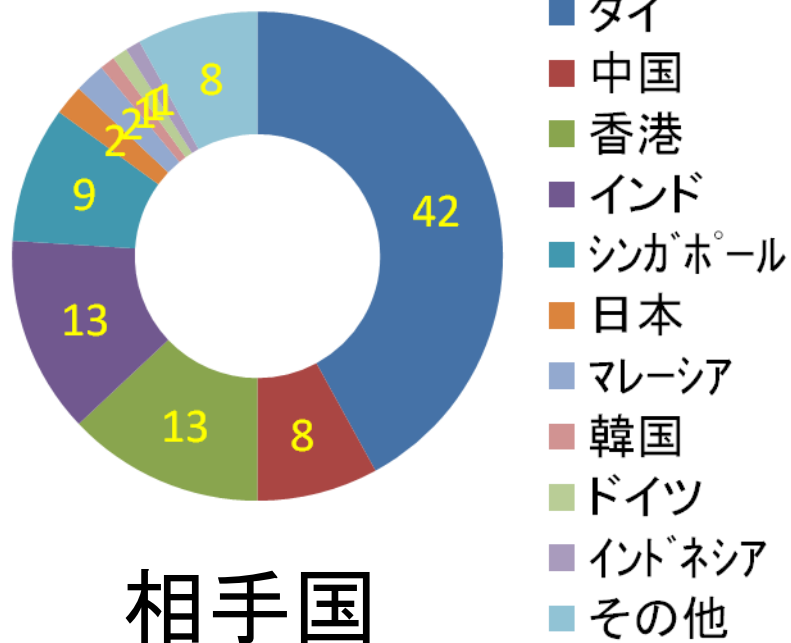


ASEAN後発国の経済状況

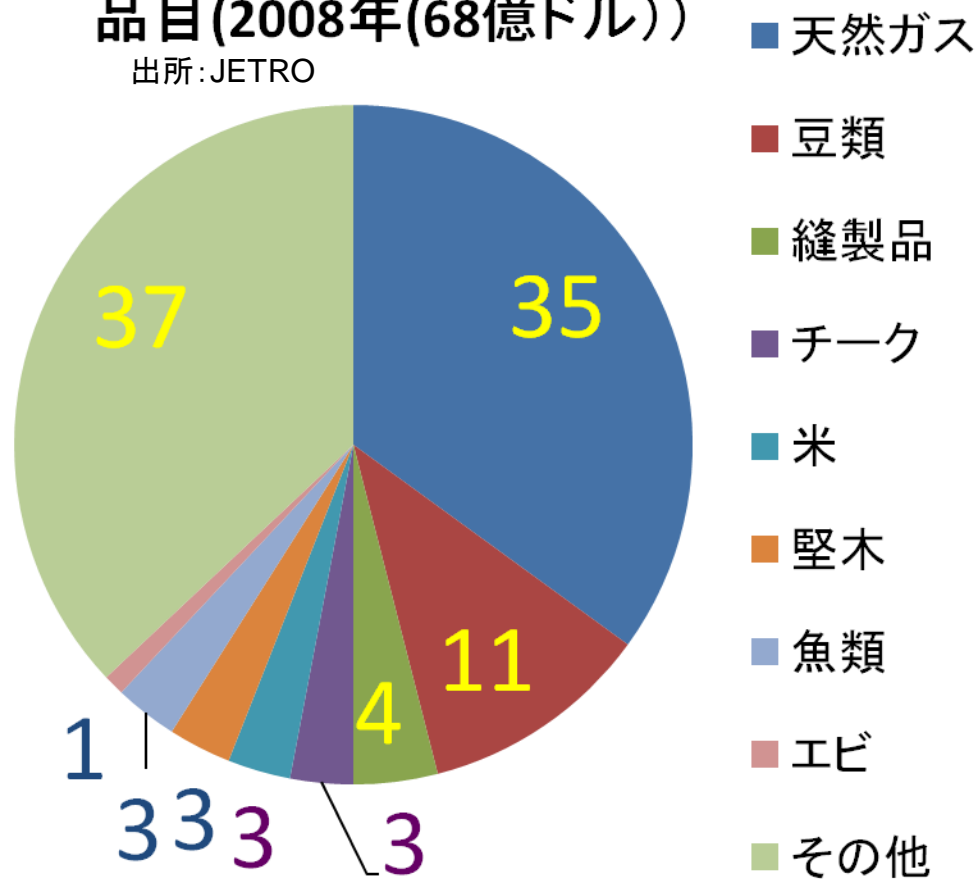
	ミャンマー	ベトナム	カンボジア	ラオス
人口(万人)	5,880	8,635	1,367	626
面積(Km ²)	68	33	18	24
GDP／人(\$)	551	1,050	730	841
経済成長率	4.4	5.3	-0.4	6.5
交際通貨基金、アジア開発銀行のデータより 2009年				

③輸出

資源は近隣・友好国へ
牽引する天然ガス輸出



品目(2008年(68億ドル))
出所: JETRO



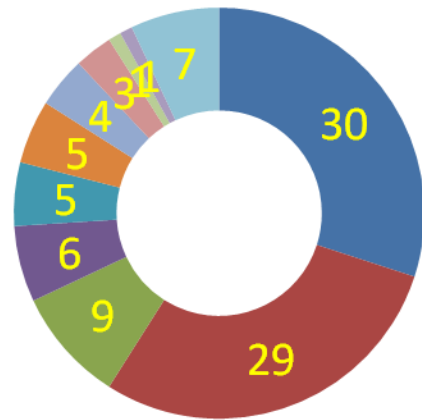
ガス田



An offshore gas field in Myanmar being developed by Daewoo International Corp.
Daewoo International Corp.

④輸入

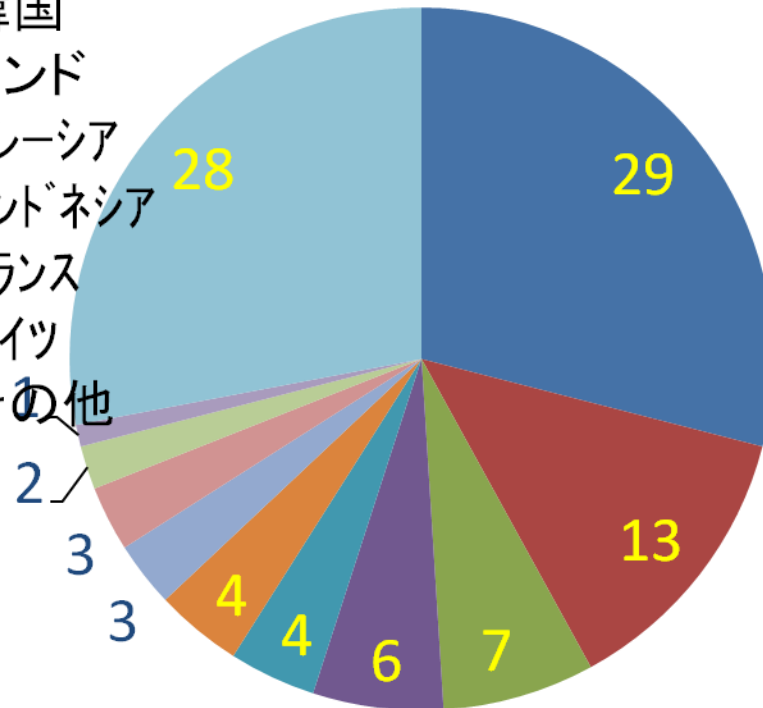
中国・シンガポール・タイから
約70%



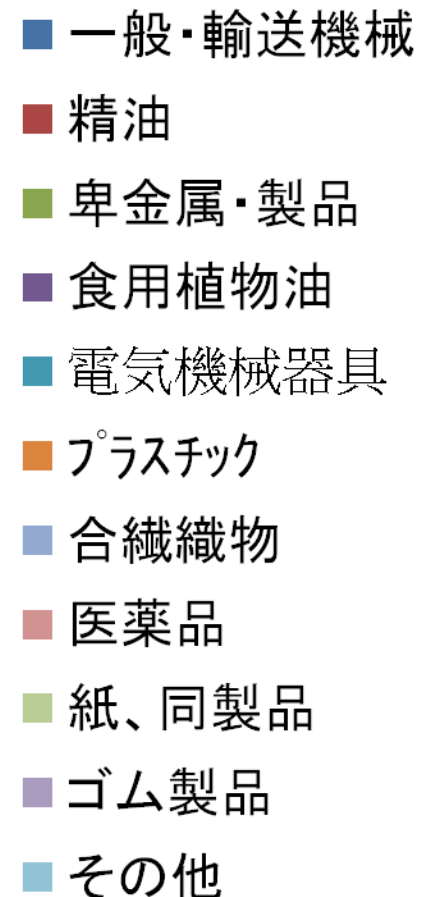
相手国



出所: JETRO



品目 2008(46億ドル)

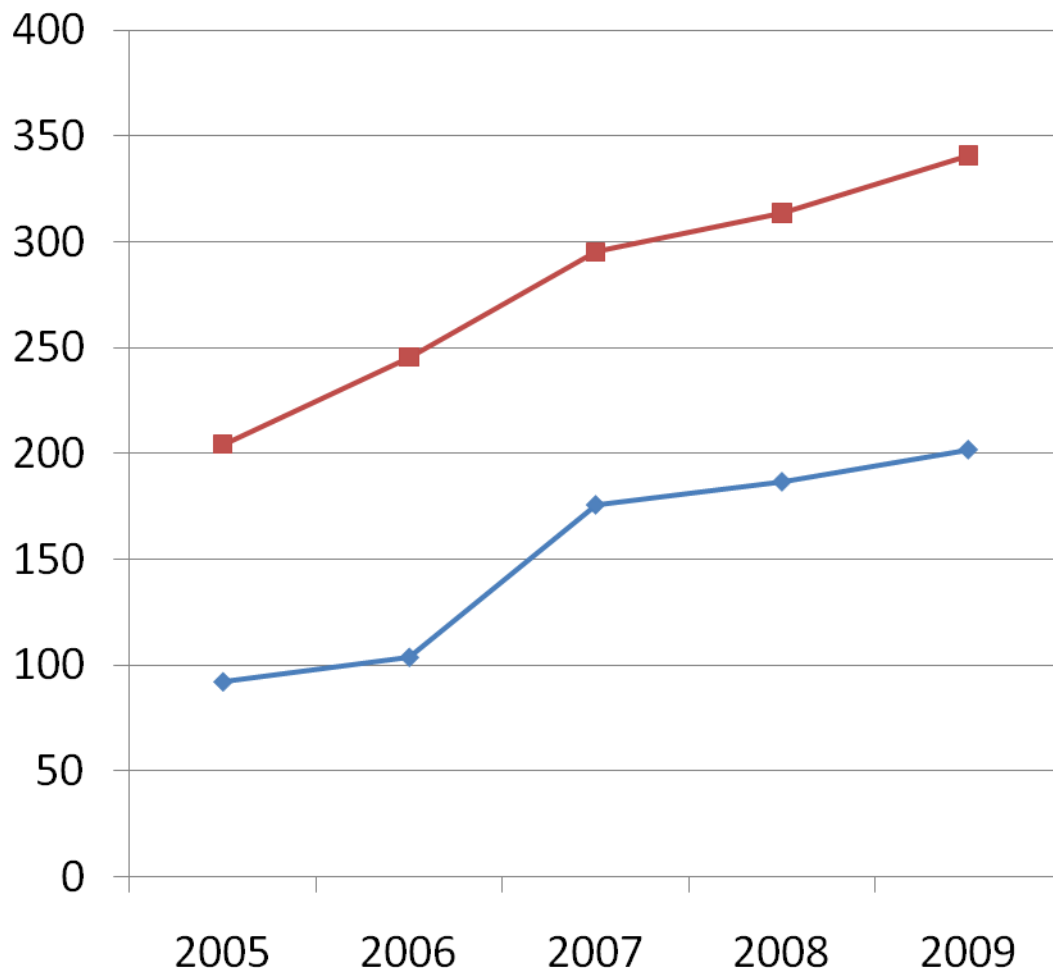


⑤日本との貿易推移

(単位: 百万US\$)

特徴: 輸出: 中古機械類重点

輸入: 労働集約型製品



—◆— 日本の輸出

輸出品目:

輸送機械(43.9%)

一般機械(28.0%)

—■— 日本の輸入

輸入品目:

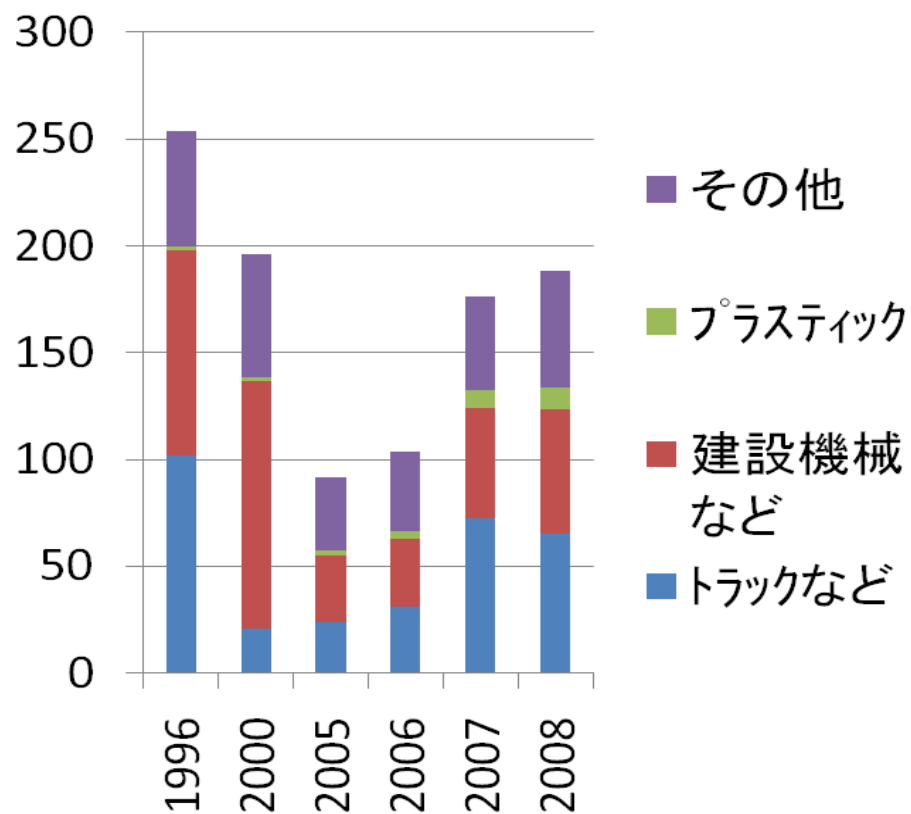
繊維2次製品(44.1%)

履き物(21.2%)

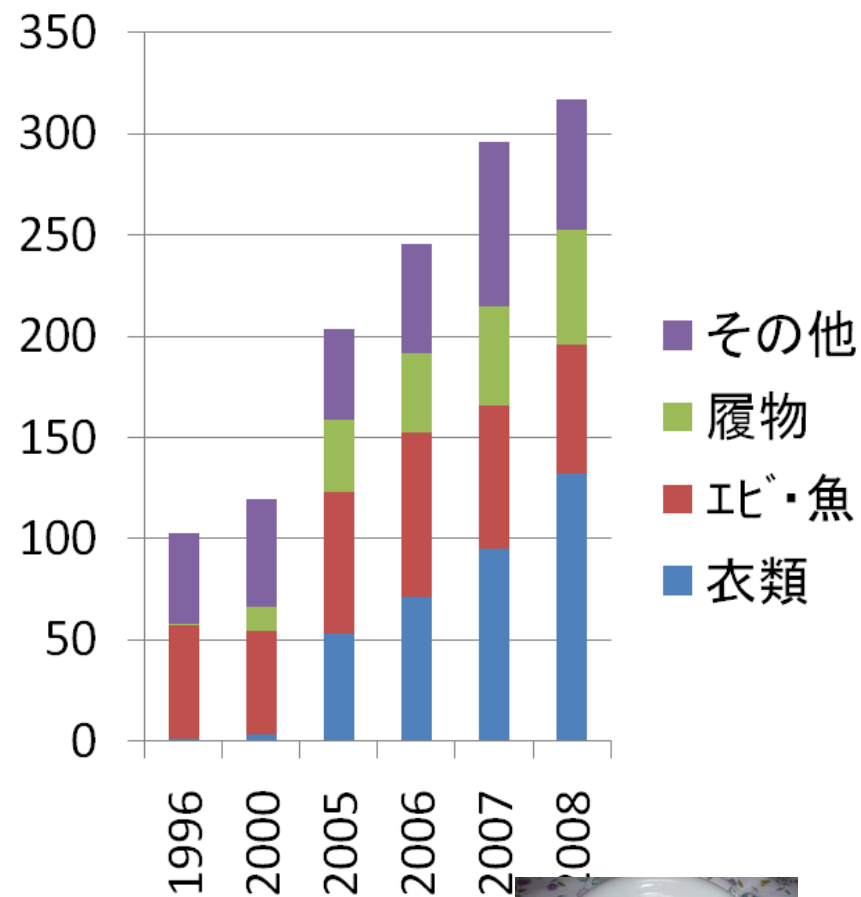
魚介類(17.5%)

出所: JETRO

2) 日本から輸出(商品別)



3) 日本へ輸入(商品別)

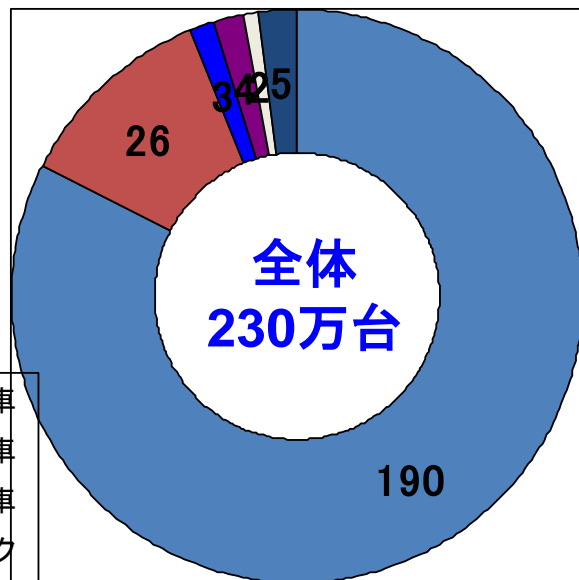


(単位: 百万US\$) 出所: JETRO



⑥ミャンマー自動車事情

1. 車種別保有台数(2010年9月 単位万台) 出所:同国政府発行資料



■ 二輪車
■ 乗用車
■ 商用車
■ トラック
□ バス
■ その他

二輪車を除くと三輪以上の車両は41.3万台で
日本とミャンマーの人口比
(128百万人/50百万人=2.56)を
掛けると約106万台で、
日本の昭和29年(109万台)頃に相当



元名古屋市バス



元トヨタオート



元自動車学校

日本の中古車が
日本語を書いたまま大活躍

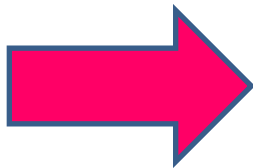
2. 自動車生産

- 1) 大型トラック: インド タタモーターズ社 2010年12月生産開始
- 2) 商用車(主流): SSS社ほか数社中国からのKD生産 2010年11月生産開始
- 3) 日系企業はスズキ(合併)が1998年に進出

8. 同国への投資環境の現状

- 1) 人口5880万人、豊富な天然資源、ASEANの中で最も廉価で優秀な人材で投資先、将来は国内消費市場でも有望。
- 2) 労働集約型産業先行
- 3) 日本企業の海外進出先 (JETRO調べ)
 - ・中国 : 27,000社
 - ・タイ : 1,300社
 - ・ミャンマー : 51社

何故？



4) ミャンマー経済発展の原動力

2000年代半ば以降、天然ガスの発見により手助け＝>ASEAN諸国、中国、インド から外貨が流れ込む構造が定着

5) ミャンマー側は歴史的に長い深い関係の日本からの投資や技術移転、技術支援を強く望んでいる。

TPSはじめ新しい経営手法の導入熱意や品質追求に対する思考や国民性は強く感じられる。

6) 貿易・投資上のメリットと課題

メリット

- ・豊富で安価な労働力
- ・対日感情の良さ。仏教徒の価値観。治安不安ない
- ・豊富な天然資源。広大で肥沃な国土。農産物豊富
- ・地理的重要・優位性。対中・印・アセアン・欧・中東
- ・消費市場としての魅力(5880万人、ヤンゴン600万人)
- ・日本向け特惠関税適用

課題

- ・政治動向の的確把握
- ・電力供給面。(大型水力発電計画)
- ・投資・貿易許可取得や外為困難さ(有力相手必要)
- ・対日貿易物流面の問題(星、馬経由3～4週間)

7) 特別経済区法の制定 (2011年1月27日)

(1) 特別経済地帯

高度技術工業地帯、情報・通信技術地帯、
輸出製品生産地帯他政府が規定する地帯

(2) 特別経済区での特権

- ・所得税他免除・減税権
- ・輸出品生産のために輸入する原料類、
燃料、設備機械、企業用自動車等の
輸入許可と輸入税免除

結論

これからのミャンマーに目が離せない。
今年のミャンマーはいろいろサプライズがありそうと強く感じた。

そのためにも今後、ESD21としてミャンマー側パートナー及びESD21の会員相互の連携強化による情報共有（相互理解）と現地人脈づくりが効果あるものとする。

ご清聴ありがとうございました



ミャンマーの明るい未来のために